

## 日本畜産物輸出促進協議会が香港 Food Expo 2018 に参加



日本畜産物輸出促進協議会は16～18日にかけて、香港コンベンション&エキシビション・センターで開催された「香港 Food Expo 2018」に参加した。会場では日本畜産物と外国産との違いの理解を促進させ、日本畜産物の差別化を目的として、日本畜産物(牛肉、豚肉、鶏肉、鶏卵、牛乳乳製品)の特長の解説、特長を活かした調理方法の提案や実演、日本文化と一体的な料理の紹介などのプロモーションを実施。香港で開催される国際食品総合見本市に参加することで、香港をはじめ世界各国の地域の流通、小売り事業者等に対し、日本の畜産物の認知度向上、輸出拡大に向けた推進が図られた。

同協議会の強谷雅彦事務局長は、日本畜産物輸出に大いに貢献している香港に対する感謝の言葉を述べ、「牛肉、豚肉、鶏肉、鶏卵、牛乳乳製品について引き続き支持していただきたい」と呼びかけた。その後、ブース内の舞台上でそれぞれの説明と試食が行われ、牛肉輸出部会は牛肉の特長の説明と牛肉のカッティングと調理実演を行い、試食はステーキ、カルパッチョ、すき焼きを提供。一方、豚肉輸出部会は、日本産豚肉の特長の説明と「白金豚プラチナポーク」「火の本豚」のブランドを紹介し、試食はしゃぶしゃぶ、焼肉が提供された。鶏肉輸出部会は、日本産鶏肉の特長とおいしい食べ方を紹介し、試食は水炊き、サラダチキン、焼き鳥、モモ肉塩焼き、とり天を提供。鶏卵輸出部会は、日本産鶏卵と鶏卵加工品について説明の後、試食には味付けゆで卵、煮卵、茶碗蒸し、卵焼きが提供された。さらに牛乳乳製品輸出部会からは、日本産牛乳・乳製品の特長とクリームチーズの紹介が行われ、試食には牛乳とクリームチーズが提供された。

また、ブースとは別にジャパンパビリオン中央ステージで17日に行われたプロモーションでは、日本産畜産物が紹介された後、和牛のカット実演と調理デモが行われた。会場には約200人が詰めかけ、香港での和牛の人気を物語っていた。

和牛のカット実演を行った㈱ミート・コンパニオンの植村光一郎常務取締役は「齋藤農水大臣に会場へ応援に来ていただけたことや、今まで香港では利用されていなかった希少部位の紹介や有効活用が成されていなかった部位の商品化の提案ができたことは大きな成果につながった」と強調した。

### 齋藤農相、香港 Food Expo 2018 に出席、品質や安全性PR

齋藤農相は15～17日まで、香港に出張し、「香港 Food Expo 2018」に出席したほか、香港特別行政区政府関係閣僚等との会談などを行った。エキスポについては16日に日本産農林水産物・食品の品質や安全性についての情報発信を行うとともに、日本からの出展者を激励した。